



TITLE:

附属図書館で「プログラミング研修会」ひらく

AUTHOR(S):

CITATION:

附属図書館で「プログラミング研修会」ひらく. 静脩 1970, 7(3): 5-6

ISSUE DATE:

1970-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36607>

RIGHT:

ねばならず不便を感じているので、電子コピーを図書室内に設置して欲しいこと、また、毎月どのような新刊書が購入されたのかわからないので、学生の目に立ちやすい所にも掲示して欲しいこと、学生の不満、購入して欲しい本についても考慮して欲しいこと等があげられる。最後に、教育学部図書室が、文学部と合併され、人文科学図書館になるかも知れないらしいが、冊数の増加に対して好ましく思うが、利用システムについて、現状以下の条件になれば困るものだと杞憂する。

議 会

「新しい大学図書館像特別委員会」を 国立大学図書館協議会に設置

昨年6月に開催された国立大学図書館協議会総会において、大学紛争を契機として、従来の大学図書館のあり方を根本的に検討し直し、今後の向うべき方向を打出す必要があるという意見が、九州地区から強く主張された。この意見は全員の賛同を得、その結果「新しい大学図書館像特別委員会」が設けられることになった。

一方、国立大学協会も、図書館特別委員会を設けて、大学図書館のあり方について検討をはじめていた。そのため「新しい大学図書館像特別委員会」は、国大協の特別委員会の検討成果をふまえてスタートする形となり、本年4月末の常務理事会で委員会を決め、第1会委員会は、7月13日名古屋大学で開催された。そして、新しい大学図書館像の問題に、①理念の点から、②中・小規模の大学図書館の立場からは相互協力を中心とした面から、③機械化の点からの3点から取組むことになり、第1の問題は北大、第2の問題は山形大、第3の問題は京大がそれぞれ中心になって検討することになった。

機械化の問題については、8月6日京大で地区委員会を開いたが、それぞれの検討の成果を持ちより、8月27日東大で第2回委員会を開催、以上の3つの問題点について、検討の成果を報告、討論を行なった。ここで得られた成果を、さらにそれぞれ深め、10月1日の国立大学図書館協議会総会で報告、討論を行なうことになっている。

ニ ュ ー ス

ソ連科学アカデミー図書館員ブラトフ氏との懇談会

さる7月30日、ソ連図書ならびに日ソ文献交流に関する懇談会が、ソ連科学アカデミー図書館東洋部長ブラトフ氏を迎えて、本館会議室でひらかれた。

その中で同氏は、ソ連の図書館はレーニンにより抜本的な改革がなされ、蔵書2,500万冊のレーニン図書館をはじめ、大規模な図書館が数多くあり、地域センターを中心にして相互協力がよく行なわれていると語った。またさらに、ソ連では図書館職員の地位はかなり高く、目録規則も統一されたものがあるが、図書館の機械化についてはむづかしい問題もあるとのべた。

附属図書館で「プログラミング研修会」ひらく

現在一部の国立大学図書館では、コンピューター導入のため、要員研修や一部業務の機械化に着手しているが、本館においても門田事務官を講師として関係各掛と一部部局から計9名が参加して、8月中旬より、“フォートランによる文字情報の処理”をテーマに上記研修

会を開始した。この研修会の中では、研修と同時に京大の雑誌総合目録をコンピューターにのせる実験作業を実際に行なう予定である。本館としては将来、雑誌総合目録だけでなく、雑誌管理全般からその他の業務にまでコンピューター化が予想されるので、今後部局側の緊密な協力を得て、十分な調整の上、図書館業務のコンピューターによるシステム化を図りたいと考えている。



農学部・教室図書室 農芸化学雑誌閲覧室

農学部本館2階の西北寄りに2室を占め、大正12年創立以来一貫して外国雑誌充実に重点をおき現在に至った。外国雑誌165種、国内雑誌35種、蔵書冊数約13,000でバックナンバーがよく収集され、はじめより開架自由閲覧である。教室創設時は丁度第一次大戦後のドイツ不況時代でバックナンバーを安く購入しどんどん送られたと聞きおよぶ。その伝統が引継がれて第二次大戦中の欠巻購入に苦しい研究費から多大の経費が当てられ、さらに新規発行の雑誌も加えて今日に至った。現在購入誌86種、予算約330万円である。今では2室の60m²スペースに収納しきれず、本館旧書庫等4カ所に別置している。

約5年前ゼロックスを備え付けてから貸出を新着・製本済の別なく“夕方4時より翌朝10時まで”に変更した。昼間は全雑誌が揃っている。(ただし複写のために短時間の例外貸出を認める。)目録は本館のユニットカードを使用、著者・書名目録以外に

Series 物 Annual, Advance類 Symposiumの報告等を別において配列し、所在のわかりにくいものの検索に当てている。閲覧室はドアで仕切られて静寂であり、冷房もあって利用率は非常によい。また他教室・他学部・研究所からの貸出(年間1,300冊)本館複写係の貸出(年間300冊)も多く、半面こちらの教官、学生が他図書室を利用させてもらう件数も増加してきた。

関連分野の新規雑誌が急増し、限られた予算でいかに利用者の希望に応えるか、またその保管の問題特に自然科学系の雑誌の利用頻度が約10年単位で急降下する特徴を考慮に入れてスペースを生かすこと等問題があるが、職員2名で出来るだけ利用者の希望に応えたいと努力している。今後は他図書室との連携をなお一層密にしてゆかねばならないと思っている。



農芸化学雑誌閲覧室

あとがき：おいそがしいところを本号にご寄稿いただいた利用者のかたがたに、紙上をかりて厚くお礼を申し上げます。1学部1名の予定で依頼したのですが、夏休みなどの関係で、本号のしめきりまでに全部は集まらなかったで、もれた学部のものは次号にのせます。

京都大学附属図書館報「静脩」Vol. 7, No. 3 (通号36号) 1970年9月15日発行・編集発行人：岩猿敏生 発行所：京都大学附属図書館・京都市左京区吉田本町・電代表771-8111 (内線) 2220-2238